

7 月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 6.2km～17.8km 管轄出張所：豊川流域治水出張所
実施日	令和 8 年 7 月 3 1 日	実施区間	吉田大橋～賀茂橋

今年の梅雨は雨が比較的多かったせいか、例年より堤防や河川敷でキノコを見かけることが多かった。ちょうどこの時期は除草されている個所が多いため目立つのかも知れない。キノコといえば、あまり日が差さない薄暗いところに生えているというイメージがあるのだが、堤防や河川敷で見かけることは決して稀ではない。

大村水防倉庫のやや下流辺りの堤防の際でオニフスベを見つけた。このあたりはレジ袋に入れたゴミがよく捨てられているので、最初はそんなゴミかと思った。しかし、レジ袋ゴミにしては白さが際立っていたので、戻って確かめるとオニフスベだった。



オニフスベは漢字では「鬼瘤」と書くこともある。「鬼の瘤（こぶ）」という意味なのだが、たしかにそんないかつさを感じさせる。かなり大きなキノコで直径 20～30cm、大きいものでは 50cm にもなるらしい。発生場所は竹やぶ、草地、雑木林の縁。この個体もまさにそのようなところで発生していた。薄暗いところにこんなものが転がっていると人間の頭蓋骨かと勘違いしてしまいそうだが、実際にそう勘違いして警察に通報されることもあるそう。

オニフスベは発生初期ならば食べることが可能らしい。はんぺんのような食感があるが味はあまりないそう。成長すると強烈な臭さがあるらしい。さらに成熟した個体は、やはりホコリタケ科だけあって、刺激を受けると外皮が破け大量の胞子をまき散らす。

数日で姿を消すキノコが多い中で、このオニフスベは 7 月下旬までほぼ 1 ヶ月間観察することができた。

管轄出張所における対応措置（必要に応じて記載）